

大学史研究会 第 34 回研究セミナー プログラム

2011 年 10 月 29 日（土）～10 月 30 日（日）

会場：岩手大学

図書館 生涯学習・多目的学習室（2階）

〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目 18-8

<http://www.iwate-u.ac.jp/campusannai/index.shtml>

参加費：会員・非会員（有職者） 2,000 円
大学院生・非会員（非有職者） 1,000 円
懇親会費：5,000 円

<出欠事前連絡のお願い>

≡ セミナー準備の都合により、事前に出欠を確認しています。同封のはがきに御氏名と出席
状況をご記入の上、**10月17日（月曜日）**までに、必ずご投函いただきますようお願い
いたします。プログラムをお届けしてから期間が短く恐縮ですが、ご協力の程、よろしくお願
い致します。

<プログラム>

第1日目 10月29日(土)

13:00～ 受付

13:30～16:15

シンポジウム「カレッジノベル—文学・小説からひも解く大学史—」

<趣旨説明>

開催校：大川 一毅

今回の研究セミナー・シンポジウム開催にあたり、「カレッジノベル—文学・小説からひも解く大学史—」という統一テーマを提案いたしました。

十数年前と比べると、昨今の高等教育研究、あるいは大学史研究の発展は目を見張るばかりです。大学や高等教育に関わる学会に参加すれば、研究の精緻化・専門化が進み、そこで披露される研究テーマも多種多様。なかなか関心あるテーマに巡り会えなかったり、どうしても理解を超えた内容だったりも珍しくありません。わが大学史研究会においても「統一テーマ」の設定は難しい課題となっています。

こうした状況をふまえ、今回のセミナー・シンポジウムでは、参加する会員が共通の基礎知識を有し、しかも興味も持ちやすい題材として、大学や高等教育機関が登場する古今東西の小説（カレッジ・ノベル）に着目しました。大学に関する公文書や研究書と違い、確かに小説で登場する大学は、作者の思い入れや、時に偏見・誤解も反映されています。しかし、むしろそれを逆手にとって、新たな視点での大学像を浮き上がらせることができるかもしれません。それぞれの時代状況のなかで「大学」は何を期待され、どう機能していたのか。そして「大学」や「大学人」に対し「市民」はいかなる眼差しをもって見つめていたのか。シンポジウムでは、報告者それぞれ独自の視点で「カレッジノベル」を切り込み、大学史をめぐる新たな知見と今後の研究課題を御提示いただけることと存じます。シンポジウムは講演会とは違いますから、参加する会員の役割も重要です。シンポジストの報告をふまえ、参加会員からの積極的な話題提供も歓迎いたします。

現在、多くの大学で自校（史）教育を導入しています。その授業に関わる研究会会員もいらっしやいましょう。このシンポジウムから、大学史に対する学生諸君の興味関心を引き起こす題材も見つかるはずですよ。

かれこれ 20 年も前のことになりましょうか。私が大学史研究会のお仲間に入れていただいた頃のことです。セミナーでの議論や懇親会の席でこの「カレッジノベル」を統一テーマにしよう、何度も提案がありました。ご記憶の方もいらっしやいましょう。今回、盛岡の地で研究セミナーをお引き受けするにあたり、元事務局員として「やり残し感」のあるこの仕事をようやく果たす次第です。

宮澤賢治が学び、石川啄木の妻である節子さんが生まれたのも、今回の会場である岩手大学上田キャンパスです（旧制盛岡高等農林学校校地）。こうした雰囲気にも助けをもらいながら、是非とも盛況なシンポジウムにしたいと存じます。ご期待下さい。

<パネリストとタイトル>

「物語の中の盛岡高等農林学校—岩手の大地と人とともに—」

大川 一毅 (岩手大学)

「フィクションとリアリティの間 —小説に「大学」を読む」

児玉 善仁 (帝京大学)

「文学・小説にみる日本の大学—夏目漱石・久米正雄を中心に—」

吉野 剛弘 (東京電機大学)

「中世パリ大学 ソルボンヌ学寮グラフィティ」

松浦 正博 (広島女学院大学)

司会：福留 東土 (広島大学)

全体討議 (途中にショート・ブレイクをはさみます)

16:30~17:30 総会

18:00~ 懇親会 (於：「南部藩長屋酒場」 住所：盛岡市大通2-6-4)

第2日目 10月30日(日)

8:30~ 受付

<自由研究発表>

司会：深野 政之 (一橋大学)

9:00~9:50

「アメリカにおける大学情報収集システムの成立と発展過程」

山崎 慎一 (桜美林大学)

9:50~10:40

「カリフォルニア大学の共同統治とその形成過程」

福留 東土 (広島大学)

(休憩)

10:50~11:40

「札幌農学校開校(1876年)の背景」

井上 高聡 (北海道大学)

11:40~

施設見学

農学部附属農業教育資料館 (詳細については『大学史研究通信』68号をご覧ください)

終了後、解散

宿泊のご案内

8月末発行の『大学史研究通信』67号に大川会員による詳しい宿泊情報を掲載しています。以下、ホテル名のみ抜粋します。宿泊の手配は会員各位で行って下さい。

スタンダードクラス (通常料金1泊1名5000円～7000円)

- ・ホテル ルイズ (<http://www.hotel-ruiz.jp/main.html>)
- ・ホテル ルートイン 盛岡駅前 (http://www.route-inn.co.jp/search/hotel/index.php?hotel_id=239)
- ・東横イン 盛岡駅前 (<http://www.toyoko-inn.com/hotel/00038/index.html>)
- ・東横イン 盛岡駅南口開運橋 (<http://www.toyoko-inn.com/hotel/00181/index.html>)
- ・R&B ホテル盛岡駅前 (<http://morioka.randb.jp/>)
- ・扇屋旅館 (<http://ougiya.cc/>)

ミドル・アッパークラス (通常料金1泊1名7000円～10000円。)

- ・ダイワ ロイネットホテル (<http://www.daiwaroynet.jp/morioka/>)
- ・ホテル ロイヤル 盛岡 (<http://www.hotelroyalmorioka.co.jp/>)
- ・東日本ホテル盛岡 (<http://www.hotel-higashinihon-morioka.com/>)
- ・ホテルメトロポリタン盛岡 (<http://www.metro-morioka.co.jp/morioka/index.html>)
- ・ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング

リーズナブルクラス (通常料金1泊1名3000円～5000円)

- ・盛岡 シティホテル (<http://www.moriokacityhotel.co.jp/city/index.htm>)
- ・スーパーホテル盛岡 (http://www.superhotel.co.jp/s_hotels/morioka/morioka.html)
- ・桐丘荘(とうきゅうそう) (<http://tokyuso.adm.iwate-u.ac.jp/>) (岩手大学構内)

<盛岡の気候について>

10月に入り、盛岡はめっきり秋冷が進んでおります。岩手山も冠雪しました。盛岡においでいただくにあたり、冷え込みへのお支度にもご留意下さい。温暖な地域にお住まいの場合、そちらの11月中・下旬の気候に相当するかと存じます。

会場への交通アクセス

『大学史通信 68号』(本プログラムに同封)に詳しい情報を掲載しています。そちらをご参照の上、会場へお越し下さい。

<セミナーに関するお問合せ・連絡先>

大学史研究会事務局セミナー担当 福留東土

〒739-8512 東広島市鏡山1-2-2 広島大学高等教育研究開発センター

TEL&FAX: : 082-424-6231 E-Mail : fukudome@hiroshima-u.ac.jp

セミナー当日の緊急連絡先 : 090-8066-7347

大学史研究会事務局

浅沼 薫奈 (大東文化大学)

井上 美香子 (九州大学)

岡田 大士 (中央大学)

沖塩 有希子 (千葉商科大学)

五島 敦子 (南山大学短期大学部)

福留 東土 (広島大学)